

## <IT パスポート試験 講評>

### 【小問形式】

初級システムアドミニストレーター試験（以下、初級シスアド試験）を発展的に引き継ぐ試験として今回初めて実施された試験です。初級シスアド試験で出題されていた定番問題や類似問題も多く出題されていました。初級シスアド試験の過去問題をベースに学習されていた方にとっては容易に解答できた問題が多かったものと思われます。

今回、出題分野は初級シスアド試験よりも広くなり、新試験制度ということで出題傾向の異なる問題も散見されました。しかし、手間のかかる計算問題や応用問題はほとんどなく、用語に関する問題も数多く出題されており、比較的解答しやすかったものと思われます。

「職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識」を問う試験として、「IT パスポート」という名前にふさわしい適切なレベル設定がされた試験だったと言えるでしょう。

小問形式としての出題数は下記の通りでした。( ) カッコ内は出題比率です。

分野	出題数	全体比率
テクノロジー系	31	35%
マネジメント系	22	25%
ストラテジ系	35	40%

当初発表されていた出題比率は、ストラテジ系 35%、マネジメント系 25%、テクノロジー系 40%でしたので、出題比率は発表内容のとおりです。

今までの初級シスアド試験午前問題の範囲と比較して、基礎理論分野が新たに加えられました。2進数の計算やベン図と論理演算などの問題が出題されましたが、それぞれごく基本的な問題でした。

また、クレジットカードの取引や画面設計、度数分布のグラフなど、定番テーマながらも、やや目新しさを感じる出題方式もありましたが、落ち着いて考えれば従来からの知識で解答できたと思います。

小問形式の問題全体として、いたずらに誤答を誘うような選択肢も少なく、用語の定義と意味をきちんと学習し、基礎的な点を押さえながら落ち着いて解答できた方にとっては十二分に対応できる試験だったと言えるでしょう。

解答時間も十分であり、試験制度の趣旨を考慮して、難易度としては「標準的」と考えています。

#### 【中間形式】

中間形式での出題は下記のとおりでした。( ) カッコ内は分野ごとに分類した問題数です。

	分 野	出題分野	出題数
中間 A	LAN で構成されるシステムの障害特定手順	テクノロジー系	4 問
中間 B	会員データの表とグラフの分析	テクノロジー系	2 問
		ストラテジ系	2 問
中間 C	通信販売業務における 2 人の作業時間	マネジメント系	3 問
		ストラテジ系	1 問

中間 A は問 89 と 90 が、障害の原因と考えられる構成要素数を選択する問題でした。「テクノロジー」の問題に分類されていますが、条件を読み間違えたり、読み落とししたりしなければとくに高度な知識がなくとも解答できる問題です。問 91 と 92 は、フローチャートを使って障害原因を切り分ける問題でしたが、こちらも複雑なフローチャートではなく、きちんと問題文を読んで解答すれば難しい問題ではありません。

中間 B についても、問 93 で「結合」や「射影」といったデータベース用語が出てきますが、専門用語として考えなくても通常の意味の範囲内で解答できる問題です。問 94 は表を読み取る問題、問 95 と 96 はグラフを読み取る問題でした。グラフを読み取るに当たって表中の数字から比率を算出する必要がありますが、難しい計算ではありません。

中間 C は、作業効率が異なる 2 人の作業量や作業時間を算出する問題でした。問題の状況をきちんと把握せずに単純な計算のみで解答すると間違える可能性があります。中間形式の中ではやや差が付きやすい問題であったと思われます。とは言っても、間違いを誘いやすい選択肢もなく、問題に設定された状況を落ち着いて考えれば十分解答できるだろうと思います。

中間形式全体として、高度な知識や複雑な計算の必要はなく、素直な問題であったと思います。時間的には、小問形式が終わったのち、解答する時間は十分に確保できたと思います。難易度としては新試験制度の趣旨を考えて、小問形式と同じく「標準的」と考えています。